

会 派 名 報告者氏名	民社友愛 佐藤和典、相澤宗一
種 別	<input type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用 務	日本自治創造学会 研究大会
日 時	①令和7年5月15日（木）13:00～17:00 ②令和7年5月16日（金）10:00～12:00
場 所 （会 場）	明治大学アカデミーコモン棟 アカデミーホール （東京都千代田区神田駿河台 1-1）
概 要	<p>【研修内容①】</p> <p>「地方自治における政治の復権」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二元代表制の原理的矛盾 ・自治体議院内閣制の提案 <p>「日本の統治構造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官僚内閣制は議院内閣制になったのか <p>「JICAにおける地方創生 2.0 地域活性化事業への挑戦」</p> <p>【研修内容②】</p> <p>「AI時代の双方向コミュニケーション選挙戦略」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都知事選の経験から学ぶ 「ネット選挙に対応する」 ・公職選挙法の改正とその行方
所 感 等	<p>【佐藤和典】</p> <p>内容が難解であったり、私と違う立場からの講義もありましたが、地方自治のあり方への理解を深め、私自身の思考の整理や理論構築のヒントを見つけることが出来た2日間となりました。特に2日目の「AI時代の双方向コミュニケーション選挙戦略」では、東京都知事選に出馬し注目を集めた■■■■氏の講演であり、私の不得意な部分のピースをはめる貴重な資料となった。これまで、対面、メール、電話のみで集約していた私への意見は層別も困難であった。これからはAIを用いる手法が普及してくるので、より簡単に意見集約ができるようになるのではないかである。ある程度のパソコンの能力があればプログラミングも出来るということだったのでチャレンジしてみようと思う。政治家としての自身の仕事の合理化や迅速化を進め、よりの確な施策展開につなげていきたい。</p> <p>【相澤宗一】</p> <p>今年の研究大会のテーマは「変容する社会・地方選挙～地方自治のあり方を問う～」であった。「国と地方の役割分担を明確化することで、自己責任の確立と行政経費の無駄を削減することができる」との提言がなされた。自己責任の確立は、相手のペースにとられることなく自分の成長・行動改善につながることにある。もう一つの無駄の削減は、例えば道路や空港、河川、上下水道等の社会資本の整備をはじめ、産業、通信、雇用、福祉、教育、環境、治安等の分野において国・県・市が重なることなく、能率的な配備とすることで、無駄の削減が期待される。歳入の根幹となる市税の漸減傾向、一方歳出は老朽化する公共施設の更新時期を迎え、今後の財政運営が一層厳しい状況の柏崎市。健全財政維持のためにも、現在行っている施策・事務事業評価もさることながら、行政経費の削減につながる国県との重複部分の洗い出しを研究したい。</p>

